



新しい風を吹かせる

窪寺 昌一[†]

How to Cause a New Wind

Shoichi KUBODERA[†]

一般論ではないことをお断りした上でさらに自戒を込めて言うが、大学組織のなかで教育、研究、社会活動を行っているが往々にしてルーチン化することが多々あるように思われる機会が増えてきた。毎年新年度には新しい学生が入学し、大学には新しい風が吹いてくれるのだが研究室、教授室周辺のよどんだ空気を一新してくれるまでにはいかない。それらを吹き飛ばす突風を得るために職場環境を変えることはルーチン化への有効なカウンターであるが、その機会は誰にもそうあるわけでもない。ルーチン化した組織内に新しい風を導き入れることは、実は風を吹かせる方もその風を感じる方にとっても容易なことではない。

さて話が変わって、レーザー学会の重要な事業・活動のひとつに「技術専門委員会」がある。その設置目的を学会のホームページから引用すると、「レーザーおよびその応用技術の特定の研究分野、特に萌芽的な研究テーマ、急速な進展をみせている技術、システムの検討を必要とする学際的な課題等に関して、専門家による集中的な検討を加え、その発展を促進することを目的とする」とある。この技術専門委員会を管理する研究委員会に長く携わっているが、技術専門委員会のテーマには、タイムリーなもの、将来を見据えたもの等実に多岐にわたり(現在14のテーマで実施されている)、委員会を構成する委員の専門家の方々の見識にあらためて感心することが多い。一方でレーザー学会のみならず各種関連学会においてもレーザー、光、量子をキーワードとする同様の専門委員会、調査委員会が多数存在しており、レーザー学会としてこれらを行うメリットを出しづらくなっているように感じることもある。また、長年種々のテーマを見てくるとテーマ内容から推察して入口と出口がある程度予想できてしまうものがあることも事実である。よい意味でも悪い意味でも技術専門委員会として専門調査を行うテーマ群にかすかなルーチン化を感じ始めていた。

そのようななか、平成28年度から技術専門委員会に新しい風が吹き込んできたと感じている。すなわち、新たに「光感性」というテーマでの技術専門委員会が発足し鋭意活動が進められている。その設置目的は「LED、レーザーなどの固体照明のデザイン、レーザーアート分野における要素技術、応用の現状および課題(新たな応用、安全、スペックル、光源等)と人への影響を調査する。また普及のためのコミュニティを形成する。」ということである。「レーザーアート分野」なるキーワードはこれまでなんとなくわかってはいたものの学会としては手がつけられなかった分野のように思われ、今後どのように発展していくのかも含めて大いに期待したい。委員会を構成する専門家の委員の方々のバックグラウンドも多岐にわたり、よい意味で科学を脇に置いての「感性」を前面に出した調査、研究評価も期待できる。この技術専門委員会の発足に携わった方々、特に委員長を務める豊田 周平氏(豊田産業(株))には敬意を表したい。3年間の調査期間のうち今年度が2年目であり、成果も出つつあると聞いている。また、これまでのレーザー学会会員が得意とするレーザー光源に関するハード面、ソフト面を提供することによるコミュニティ作りを通じての相乗効果も期待できる。これらは委員会終了後にレーザー学会年次大会シンポジウムや学会誌特集記事等で公開されることになるであろう。会員の皆様も今後の動向にご期待いただきたい。

繰り返しになるが、私はこれを従来の技術専門委員会の中に吹き込まれた新しいさわやかな風と感じている。何かを吹き飛ばす突風である必要はないが、技術専門委員会の「風通し」を一層よくしてくれる新風という理解である。このような風が吹き込まれることで、技術専門委員会の成果についての認識を会員の皆様にも一層新たにしてもらえるのではないかと思う。これをきっかけにさらに新しい風が技術専門委員会に吹き込むことを願ってやまない。

[†] 創価大学理工学部共生創造理工学科(〒192-8577東京都八王子市丹木町1-236)

[†] Faculty of Science and Engineering, Soka University, Tangimachi 1-236, Hachioji, Tokyo 192-8577